



## 芦高4年間

第12代学校長 浅場 七郎

昭和57年4月、淡路教育事務所から県立芦屋高等学校に着任しました時、元気な生徒諸君の挨拶を受け、5年間教育現場を離れていた私は、教師に戻れた喜びを実感し、校庭の桜が殊更に美しく見えました。昭和23年4月県立御影高校に着任した時は芦高が羨しく、当時生徒を交流することになり私の担任した生徒の何人かは喜んで芦高に転校しました。同時に先生の交流もあり、御影に来られた先生のお話を聞く程にその感が強くなりました。

私が着任しますと、長い歳月の経過とともにいろいろな内容で様変りをしておりました。本館が立派になり、同窓会の寄贈による佐藤忠良先生の「レイの像」が玄関に据えられているのを見た時は、流石芦高と感じ入りました。しかし暇を見て校内を見て廻りますと手をつけたい箇所が数多くありました。中館と南館の間を庭園にし生徒の憩の場とし、「レイの像」を置けばと思いました。建先生や中川先生にお話すると、せめて通用門の横の藤棚を改修してはということで、同窓会で改修して頂きました。

中館の窓枠が腐蝕して落下しそうだの報告があり東藤事務長さんが県と交渉して、アルミ窓枠との取替が決定し、その序でに塗装もできました。中館の便所がよく故障するので別棟で便所を作ってはと思いましたが実現できず、せめて屋外にでもと思い、これは実現できました。この時、古くからあった銀杏を伐採するというのを建先生と相談し、移植したのも面白い思い出の一つです。本館の空調のことで、担当はある一定の騒音のある箇所のみ設置するとのことで騒音調査に来校し、本館3階で授業を受けている生徒に「騒音が気になるか」と質問すると、言下に「気になりません」と答えたのには、狼狽しました。結局本館南側の常時使用する箇所全部と図書館ということになりました。中村功先生ら体育の先生方から、体育準備室が何とか綺麗にならないかの相談を受け体育館改築と併せて、プールの位置が死角になっていること、部室に盗難が多く老朽化していること等一気に解決ができないかと考え、東藤事務長さんと計画を練りました。本館の二階から体育館に橋がかけられないか、体育館をテニスコートに建てるとか、中館・南館を北側に移しその跡に建てるとか、何とか狭い校地を有効に利用できないかを考えましたが、結局現在地にならざるを得ませんでした。同窓会長の和田一成先生にご相談しますと「よしやろう」と賛成を得て全面的にご支援をいただき予算化の運びとなりました。体育館・プール・部室の改築は、和田先生のお力によるもので、深く感謝申し上げる次第です。

校旗の新調については、校章の決定版をつくるべく建先生をはじめ諸先生の努力で石田先生の手による原本を入手し、川島織物で、近隣の学校にない高価な立派なものをこれまた、同窓会で作っていただきました。在任中、同窓会、育友会の皆様による絶大なご支援を今、改めてお礼申し上げます。

中川先生が提唱された、師弟同行作品集「あしたづ」が創刊されたことも嬉しいことでした。生徒の学力伸張のため教務を中心に常に検討され、補講習の実施、登校拒否・指導措置を受ける生徒が極めて少数であったこと、進学・就職指導の取り組み、更に演劇・吹奏楽・弓道・軟庭・ラグビー・サッカー等部活動の活発化等先生方のご努力を多としながら、何一つ報いられなかった私の菲方を悔ゆるのみです。と申しますのは、学校教育において傑出した特色をつくることは必要です。しかし方法と運用を誤ると歪みを生じないとも限りません。知・徳・体の調和的発達を学校全体に求めるのか、将又それぞれ個に求めるのか、その結論を出し得なかったことです。教育の本質は洋の東西を問わず、古今を通じて違いのないものであり、教育は頂上のない山を登るようなもので、教育の道にあるものは不断の努力を続けなければならないと思います。

在任中、諸先生方のご協力特に教頭の金崎・森脇両先生、事務長の東藤先生には大変お世話になりました。まことに感謝の極みです。金崎先生は教育功労章を受けられ、森脇先生は校長に栄進され、心から大慶に存じます。

県立芦屋高等学校の、同窓会「あしかび会」を含めて、一層のご発展を祈念いたします。